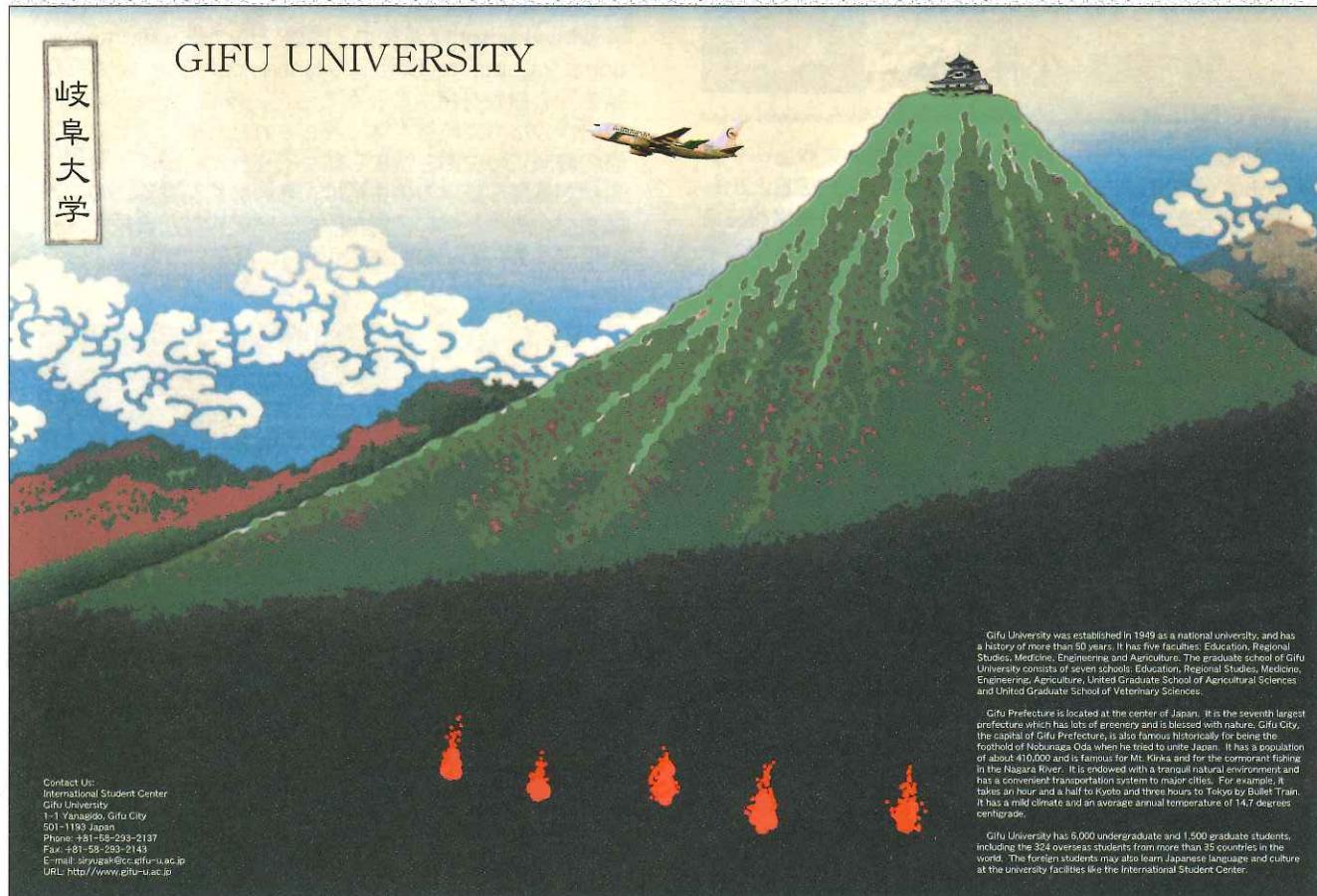


岐阜大学国際交流委員会 No.28 2003年2月

NEWSLETTER

GIFU UNIVERSITY

岐
阜
大
学



Contact Us:
International Student Center
Gifu University
1-1 Yanagido, Gifu City
501-1193 Japan
Phone +81-52-213-2137
Fax +81-52-213-2149
E-mail: sinryaku@ics.gifu-u.ac.jp
URL: <http://www.gifu-u.ac.jp>

Gifu University was established in 1949 as a national university, and has a history of more than 50 years. It has five faculties: Education, Regional Studies, Medicine, Engineering and Agriculture. The graduate school of Gifu University has three schools: Graduate School of Regional Studies, Medicine, Engineering, Agriculture, Under Graduate School of Agricultural Sciences, and United Graduate School of Veterinary Sciences.

Gifu Prefecture is located at the center of Japan. It is the seventh largest prefecture which has lots of greenery and is blessed with nature. Gifu City, the capital of Gifu Prefecture, is also famous historically for being the foothold of Nobunaga Oda when he tried to unite Japan. It has a population of about 410,000 and is famous for Mt. Kinka and for the comorant fishing in the Nagara River. It is endowed with a tranquil natural environment and has many scenic spots. Gifu is connected by expressway to Kyoto, which takes an hour and a half to Kyoto and three hours to Tokyo by Bullet Train. It has a mild climate and an average annual temperature of 14.7 degrees centigrade.

Gifu University has 6,000 undergraduate and 1,500 graduate students, including the 324 overseas students from more than 35 countries in the world. The foreign students may also learn Japanese language and culture at the university facilities like the International Student Center.

岐阜大学ポスター：デザイン 教育学部助教授 野村幸弘

国際交流のあり方

岐阜大学国際交流委員会委員長（副学長） 後藤 宗弘

大学における国際交流が盛んになっている。国際交流といってすぐに思いつく活動は留学生の受け入れ、学生の海外留学、研究者の国際会議への参加などであろうが、そのほかにも発展途上国への国際教育協力、国際共同研究など、その間口は広い。来年度はこのような国際交流に関係した「国際的な連携及び交流活動」についての大学評価・学位授与機構による評価が、それぞれの国立大学に求められている。大学はこのような活動をどのような目的、目標を持って実行しているか、どのような体制で実行しているか、活動はどのような成果を大学の教育研究活動へもたらしたのか、それは十分なのか不十分なのかを、自己評価しなさいという要請である。

岐阜大学がこの分野について国際的な基準でどの位置

にあるかということは、簡単には決められない。しかし、国際的に評価されるためにはそれなりの活動をしなければならない。活動をするためには大学がそれなりの水準にいなければならない。苦しいところである。

大学の法人化によって各大学は、各自決定した中期目標に従い、決められた予算の中で活動し、教育、研究、地域貢献などという観点から評価されようとしている。この中に国際的な連携による交流活動も大きな評価項目と見做されることになろう。ほかの大学でやっているから岐阜大学でもやるといった安易な取組みではなく、確固とした目標を持って計画された国際交流を、経済効果も考慮して展開すべきである。

在外研究報告

平成14年度岐阜大学学術交流 協定大学との研究者派遣助成 Lund大学社会・経済地理学教室訪問報告

教育学部教授 小林 浩二



私は、平成14年11月4日～15日の間、スウェーデン Lund大学社会・経済地理学教室を訪れた。12日という短い滞在だったが、私の専門の先生方と十分な情報交換ができ、きわめて有意義だった。ここでは、私のスウェーデン滞在中、とくに印象に残ったつぎの3点をあげておこう。まず第1は、スウェーデンが南北にきわめて長い国であり、地域によって自然条件が大きく異なっており、また、地域的にきわめて多様だということを改めて実感したことである。こうした状況から、いかに均衡ある国土づくりを行うかが重要な課題となっているわけで、私の専門である地理学が重要な学問に位置づけられているゆえんでもあろう。ちなみに、Lund大学のあるルンドは、最南端に位置しており、スウェーデンでは自然条件が最も良好な地域で、人口密度の最も高い地域に属している。

第2は、スウェーデンがヨーロッパにあるとはいえる、ヨーロッパの大半とはかなり異なる側面があることを実感したことである。たとえば、ドイツやフランスなどヨーロッパの大半では、現在、EUの東方拡大が最もホットな議論となっているが、スウェーデンではそうではない。むしろ、スカンジナヴィアの発展をどうするかが主要な議論であり、その意味で、デンマーク、ノルウェー、フィンランドとの関係をどうするかに重点が置かれている。「北欧」と呼ばれるゆえんも、そのあたりにあるのだろう。

マングローブ林の環境研究、 カセサート大学と私

農学研究科2年 小林 正典



2002年8月12日から9月10日にかけて、タイ王国でマングローブ林のバイオマスに関する調査に同行する機会を与えていただきました。私達の森林生態学研究室では、カセサート大学・チュラロンコン大学との共同で、マングローブ林の修復に関する研究を20年間も行っています。今年度の調査は、東タイのトラートという町の近くで、樹木の重量を測定して、マングローブ林の成長量や二酸化炭素吸収量を推定することを目的としています。

現地では、毎日朝6時半に起床。食事後は船に乗って調査地まで行き、夕方まで根を掘ったり樹木の直径や高さを測ったりする泥だらけの毎日でした。夕食後も、洗濯、パソコンへのデータ入力と、体力的にも精神的にもかなりハードな生活でした。しかし、町に出て買い物をしたり、色とりどりの鳥、満天の星や木いっぱいに着くホタルを眺めるという、熱帯ならではの楽しみもたくさん味わえました。

タイ側の大学の先生や学生、それに森林局の職員をは

第3は、スウェーデンが伝統と近代化の調和した国だということを実感したことである。恐らくその典型がストックホルムではあるまいか。今回、訪れたストックホルムは、伝統と近代化が調和したきわめて美しい街だった。伝統を重視するドイツとは、大きく異なっている。ヨーロッパとはいえ、ヨーロッパは地域的差異がきわめて大きいことを実感した。

私は、Lund大学滞在中、国際プログラム局(International Programme Office)の Hofvendahl氏とも情報交換をする機会を持つことができた。彼は、1992年に語学研修のために岐阜大学に滞在されたということで、当時の岐阜での生活を懐かし語ってくれた。彼にとって、自然が豊富な岐阜での生活は、きわめて有意義のことだった。それだけに、別れ際に、彼の言った言葉が、私には強く響いた。「最近数年間は、岐阜大学からの留学生は来ていません。寂しいですね。われわれが設けている語学の基準(TOEFL試験)を突破できないからでしょうか。とにかく基準をクリアして、たくさんの学生が来てほしいですね。」



緑豊かなルンド大学 (2002年11月撮影)



ルンド大学社会経済地理学教室
(2002年11月撮影)



調査で訪れたルンド近郊の大農場
(2002年11月撮影)

じめ、同行した岐阜大学の仲間達と一緒にになって働き、無事に目的を達成することが出来ました。ライフスタイルや価値観の異なる彼ら友人達との交流や1ヶ月間の共同生活は、日本でなかなか経験できない貴重な体験でした。これからも向こうで知り合った友人と交流を続け、それらの経験を今後の生活に生かしていきたいと思います。ありがとうございました。



外国人留学生からのメッセージ

教育学部 外国人特別聴講学生
ウッドロウ・サラ・グレイス
(オーストラリア)



私は今年の4月のはじめ、シドニー工科大学から来て岐阜大学で1年間の交換留学を始めました。すばらしい1年間を過ごしましたがやはり驚いた事も沢山ありました。高校の頃、半年間東京で留学していましたので、日本の文化や日常生活は大体なれていますが、岐阜に来ました。しかし、東京の窮屈な電車や高い建物になっていた私は、岐阜のたんぽぽや山をはじめて見たときは飛行機を間違えて違う国に到着したかと思いました。また、シドニー工科大学はシドニーの中心にあって、キャンパスはほとんどないので、岐阜大学の広いキャンパス

を経験するのはとてもうれしい事でした。

オーストラリアは多文化社会ですので国際関係に興味ある人は多いと思います。そして、シドニー工科大学へ通っている学生は様々な国からきていて、授業で各種の考え方を学ぶ機会が沢山あります。国際関係を勉強している生徒達は1年間外国へ行って、留学をしなければなりません。私の専門は日本語とメディアですから日本へきました。岐阜大学でメディア論や日本語の授業を受けて、日本人大学生の意見を聞いたり、先生の講義に参加したりしながら、現在日本人の考え方を少し分かるようになって来て良い勉強になると思います。その上、岐阜大学の国際交流会館に暮らす事も国際的な経験になりました。

岐阜大学で、すばらしい半年間を過ごしましたので、親切な先生方やにぎやかな生徒達に本当に感謝しています。

外国人留学生からのメッセージ

工学部 応用精密化学科2年
金 真姫
(韓国)



私は韓国で高校3年生の時、「日本工大へ行こう」という留学プログラムを見つけて、すぐ日本の工大に行こうと決めました。そして、選抜試験に受かって2001年4月、岐阜大学の応用精密化学科に入学する事が出来ました。初めは、日本が初めての外国だったので、私がうまく生活できるかどうか不安もありました。でも、すぐ慣れる事ができました。それは、私の日本語が下手で分かりづらいにも関わらず、話しかけてくれたやさしい友達がいたからです。彼らは、韓国に関心を持っていろいろ質問をしてきたり、日本語を教えてくれました。

そして、私の場合、日本に来てから自転車に乗るようになったのですが、岐阜はほんとうにいい自然があり、自転車で走るときれいな山が見えるし、空気もきれいで



気持ちがよくなります。心が広くなるような気がします。たまに、名古屋に大きい本屋とかCD屋があるから買い物に行くのですが、都市だからいろんな物があるのはよいけれど、空気がいきぐるしくて帰るとき、やっぱり岐阜に住んでいてよかったです。

そして私は、ボランティアサークルに入っていて、夏休みには、日本人の友達とカンボジアに行ってくる事が出来ました。友達みんなと10日間一緒に行動して、一緒にわらつたり、一緒に涙を流したりして、いろんなことに共感して帰ることが出来ました。自分をふり返るいい経験ができたと思っています。

今までの2年間の話は、もっともっとといっぱいありますが、これだけしか伝えられないのが残念です。これから2年間も楽しく、有意義に過ごしていきたいと思います。



留学生体験記

韓国での自分

工学研究科
機械システム工学専攻 修士2年

田中 俊彰



韓国のソウル産業大学への留学は自分の可能性を広めるとても良い機会であったと思っています。私の場合この2校間で岐大からは初めての学生であったので、事前に訪問し自ら留学の意思表示をしたことから始まりました。そんな私にソウル産業大学の皆さんのが暖かく対応してくれたことに本当に感謝しています。

私は大学院1年生として行ったので、向こうでは専攻の同じ研究室に配属されそこの学生達と朝から晩まで寝起きを共にして過ごしました。彼らは平日は研究室に宿泊し、週末だけ家に帰るという生活スタイルで、最初慣れることに大変苦労したことを覚えています。先輩後輩の関係を重んじる儒教的思想に、2年間の徴兵があるので同学年といつても皆27歳とかばかり。軍隊上がりの人間達に囲まれ日本という国から来た学生である私は多様なプレッシャーを感じました。彼らとは酒をよく飲みましたが、植民地時代の話、竹島はどこのものだ、など代

わる代わる私の前に座り質問してきました。私も関心がある分野だったので待ってましたとばかり反駁論戦し、今でもとても仲の良い友達までが顔を真っ赤にして声を張り上げていたことを覚えています。

そのような非常に緊張した1年だったと思いますが、友人、先輩、韓国語等いろんなものを習得し経験できた中身の濃い1年だったと思っています。韓国では日本人としてのアイデンティティを深く感じることができ、私は彼らを通して自分の位置を知り、自分の行動はこうあるべきだという指針となるべきものを学んだと思っています。



ソウル産業大学
緑の多いキャンパス



外国人研究者及び
留学生宿舎

留学生体験記

ソルトレークでの6週間

農学部
生物生産システム学科2年

田中 量子



私は6週間、ユタ大学へ短期留学しました。今、考えるととてもいい経験でした。私がイメージしていたアメリカとは違っていたところもあつたし同じだったところもありました。今回は岐大生が少なかったということで、他の国の人たちと一緒に英語が勉強できたことが逆によかったです。アメリカに来て私の意識の中で一番変わったのが韓国人のイメージです。とても近い距離の国なのに日本人の私は韓国には行ったこともなかつたし、韓国についてあまり詳しくありませんでした。しかし韓国人のみなさんは日本について驚くほどよく知っていました。韓国について全然詳しくない私が恥ずかしくなりました。ソルトレークシティーはモルモン教の影響で宣教師として日本に来たことのある人がけっこういました。日本語で話していると逆に日本語で話かけられることもありました。日本からこんなに遠い土地なのにと考えると、とても不思議に感じました。また、様々な国の人と英語で意思疎通ができるように改めて英語の必要性を感じました。日本に帰ってきてからは短期留学をする以前より英語を勉強したいという気になりました。

アメリカは日本では想像ができないほど広大な土地に恵まれていて、それをアーチーズという形で私が感じたところでは、これがアメリカ人の根底となるものなのかなあとと思いました。日本人には日本ならではの風景はもちろんあってそれは日本人にとって不变であるようにアメリカ人にもそうであるということです。それは無意識に定着していることで、その特性を生かすことが文明を尊重することにつながるのだろうと感じました。

このような経験はできるだけ多くの人にもして欲しいと思いました。感受性の高いうちに経験することによって、それぞれ何らかのことが心に残り今後の人生の糧のひとつとなれば幸いだと思います。



学術交流協定締結

(平成14.12.1現在)

■大学間協定 (23大学)

大 学 名	国 名	協定締結日	大 学 名	国 名	協定締結日
※カンピーナス大学	ブ ラ ジ ル	1984. 8.27	※ユ タ 大 学	米 国	1997. 5.28
※サンディエゴ・ステイト大学	米 国	1985. 5. 7	※ユ タ 州 立 大 学	米 国	1997. 5.29
浙 江 大 学	中 国	1986. 4.21	※ハ ノイ 工 科 大 学	ベトナム	1998. 6.26
広 西 大 学	中 国	1986. 4.24	ウエストバージニア大学	米 国	1998.12.16
電 子 科 技 大 学	中 国	1986. 7.21	カセサート大学	タ イ	1999. 8. 5
江 南 大 学	中 国	1986. 9. 3	※アバティダンディ大学	英 国	2000. 6.28
中 国 医 科 大 学	中 国	1987. 8.15	内 蒙 古 農 業 大 学	中 国	2000. 8. 8
※ル ン ド 大 学	ス ウ エ ー デ ン	1987. 9.12	※シドニ－工科大学	オーストラリア	2000. 8.14
※ノーザンケンタッキー大学	米 国	1990.10. 1	※ヴエスプレーム大学	ハンガリー	2001. 3. 2
※ソウル産業大学	韓 国	1992. 3.19	アンダラス大学	インドネシア	2001. 4.23
サント・トマス大学	フィリピン	1994. 6.14	バングラデシュ農業大学	バングラデシュ	2001. 8.23
※グリフィス大学	オーストラリア	1995. 3. 3			

■部局間協定 (7機関)

大 学 ・ 学 部 等 名	国 名	協定締結日	協 定 部 局	大 学 ・ 学 部 等 名	国 名	協定締結日	協 定 部 局
チュラロンコン大学 理 学 部	タ イ	1994. 3. 5	農学部	※浙 江 大 学 医 学 院	中 国	2000.12. 4	医学部
慶 北 大 学 校 農 科 大 学	韓 国	1998.12.21	農学部	※コ ン ケン 大 学 医 学 部	タ イ	2000.12.18	医学部
コ ン ケン 大 学 農 学 部	タ イ	2000. 3.27	農学部	国 立 全 南 大 学 校 工 科 大 学	韓 国	2001. 2. 6	工学部
コ ン ケン 大 学 学部間共同開発研究所	タ イ	2000. 3.27	農学部				

※印は、授業科等相互不徴収の大学を示す。

国際交流状況について

1. 岐阜大学外国人研究者受入数

(H14.12.1現在)

学部等 区分	教 育 学 部	地 域 科 学 部	医 学 部	工 学 部	農 学 部	そ の 他	合 計
私 費	0	1 (1)	4 (2)	7 (3)	4 (2)	2 (1)	18 (9)
委任経理金・その他	0	0	4 (1)	3	1	6 (4)	14 (5)
合 計	0	1 (1)	8 (3)	10 (3)	5 (2)	8 (5)	32 (14)

1か月以上本学に滞在し、岐阜大学外国人研究者受入れ規則に基づき、受入れを承認された外国人研究者をいう。() 内は、女子を内数で示す。

2. 岐阜大学外国人研究者などの訪問数 (1か月未満) (平成13年度)

学部等 区分	教 育 学 部	地 域 科 学 部	医 学 部	工 学 部	農 学 部	そ の 他	合 計
合 計	23	2	35	35	14	33	142

1. 以外で、本学に短期間滞在した外国人研究者等をいう。

3. 岐阜大学教職員海外渡航者数 (平成13年度)

学部等 区分	教 育 学 部	地 域 科 学 部	医 学 部	工 学 部	農 学 部	そ の 他	合 計
出 張	35	10	63	157	47	30	342
研 修	19	9	62	22	10	2	124
合 計	54	19	125	179	57	32	466

(私事・休職渡航を除く。)

4. 岐阜大学学生の留学者数 (平成13年度)

学部等 区分	教 育 学 部	地 域 科 学 部	医 学 部	工 学 部	農 学 部	そ の 他	合 計
短期留学推進制度	0	0	0	1	0	0	1
大学間交流協定	1	0	0	0	0	0	1
サマースクール	11	2	1	1	0	0	15
休学による留学 (語学研修等含む)	3	3	0	10	6	0	22
合 計	15	5	1	12	6	0	39

短期留学推進制度（派遣）の留学情報

この制度は、大学間交流協定に基づき、外国の大学との間で相互に学生を交換する場合に、下記の「資格及び条件」を満たしている者を、日本国際教育協会に奨学生候補者として推薦する制度です。
渡航時期は、4月1日から翌年の3月15日までの間に渡航できる者です。

「資格及び条件」

- ①派遣する期間は、3か月以上1年以内
 - ②短期留学生派遣計画に基づき、派遣先大学が受入れを許可する者
 - ③学業成績が優秀で、人物等に優れ、学部長又は研究科長が推薦する者
 - ④派遣先大学での専攻は問わないが、留学の目的及び計画が明確で海外への留学により、効果が期待できる者
 - ⑤経済的理由により、自費のみでの留学が困難な者
 - ⑥留学期間終了後、本学に戻り学業を継続する者または本学の学位を取得する者
 - ⑦英語圏の留学は、TOEFL-CBTスコアレコード173点が目安です。
なお、日本国際教育協会の奨学生として不採択になった場合でも自費(私費)により留学することができ、派遣先大学での授業料等の免除と一定数の単位互換が認められます。
- 申請手続きについては、毎年9月中旬を目途に各学部(研究科)に通知します。申請した結果については、日本国際教育協会から、1月下旬に決定通知があります。
- ※派遣先大学等は、P5の表又は「学生便覧」を参照してください。

短期留学の奨学金情報

本学では、学術交流協定を締結している外国の大学へ短期留学を希望する学生（外国人留学生を除く。）に対して、選考の上奨学金を支給する独自の制度を制定しました。

この制度は、外国の大学へ短期留学する者の経済的援助を行い、外国留学を促すことにより、学生の国際交流意識を高め、国際感覚を備えた人材の養成を目的に制定されたもので、詳細は、下記支給要項のとおりです。
なお、この制度は、平成15年4月以降に留学する者に適用され、募集は毎年9月に日本国際教育協会の募集と同時に行う予定です。

* * * * * 岐阜大学短期留学（派遣）奨学金支給要項 * * * * *

（目的）

第1 この要項は、岐阜大学（以下「本学」という。）と学術交流協定を締結している外国の大学に、岐阜大学学則第46条又は岐阜大学大学院学則第28条の規定に基づき留学する学生（外国人留学生を除く。）に対して奨学金を支給することにより、学生の国際交流意識を高め、国際感覚を備えた人材の養成を図ることを目的とする。

（資格）

第2 奨学金を受給することのできる者は、次の要件をすべて満たす者とする。

- 一 学業成績が優秀で、人格等が優れている者
- 二 留学先の大学において、教育を受けるに十分な外国語の能力を有する者
- 三 帰国後も引き続き本学において学業を継続する意志を有する者
- 四 他の機関から留学のための奨学金を受給していない者

（奨学金の支給等）

第3 奨学金を受給する者（以下「奨学生」という。）に対しては、次の奨学金月額を支給する。

- 一 国家公務員等の旅費に関する法律（昭和25年法律第114号。以下「旅費法」という。）に定める外国旅行の地域区分のうち、指定都市、甲地方及び乙地方に所在する 大学に留学する者 月額5万円
- 二 旅費法に定める外国旅行の地域区分のうち、丙地域に所在する大学に留学する者 月額4万円

2 奨学金の支給期間は、1年以内とする。

（奨学生の人数）

第4 毎年度において新たに採用する奨学生の人数は、2名以内とする。

（奨学生の決定）

第5 学長は、岐阜大学留学生交流専門委員会及び岐阜大学国際交流委員会の議を経て、奨学生候補者を選考する。
2 学長は、奨学生候補者が留学先の大学の入学許可及び当該国の入国査証を取得したときには、その者を奨学生として決定する。

（奨学金の支給の取消し）

第6 学長は、奨学生が次のいずれかに該当するときには、支給期間中であっても奨学金の支給を打ち切るものとする。
一 成業の見込みがないと判断されたとき。
二 第2第3号又は第4号に掲げる要件を備えなくなったとき。
三 留学生たるにふさわしくない非行のあつたとき。

（奨学金の原資）

第7 奨学金は、岐阜大学国際交流促進のための奨学寄附金から支出するものとする。

（雑則）

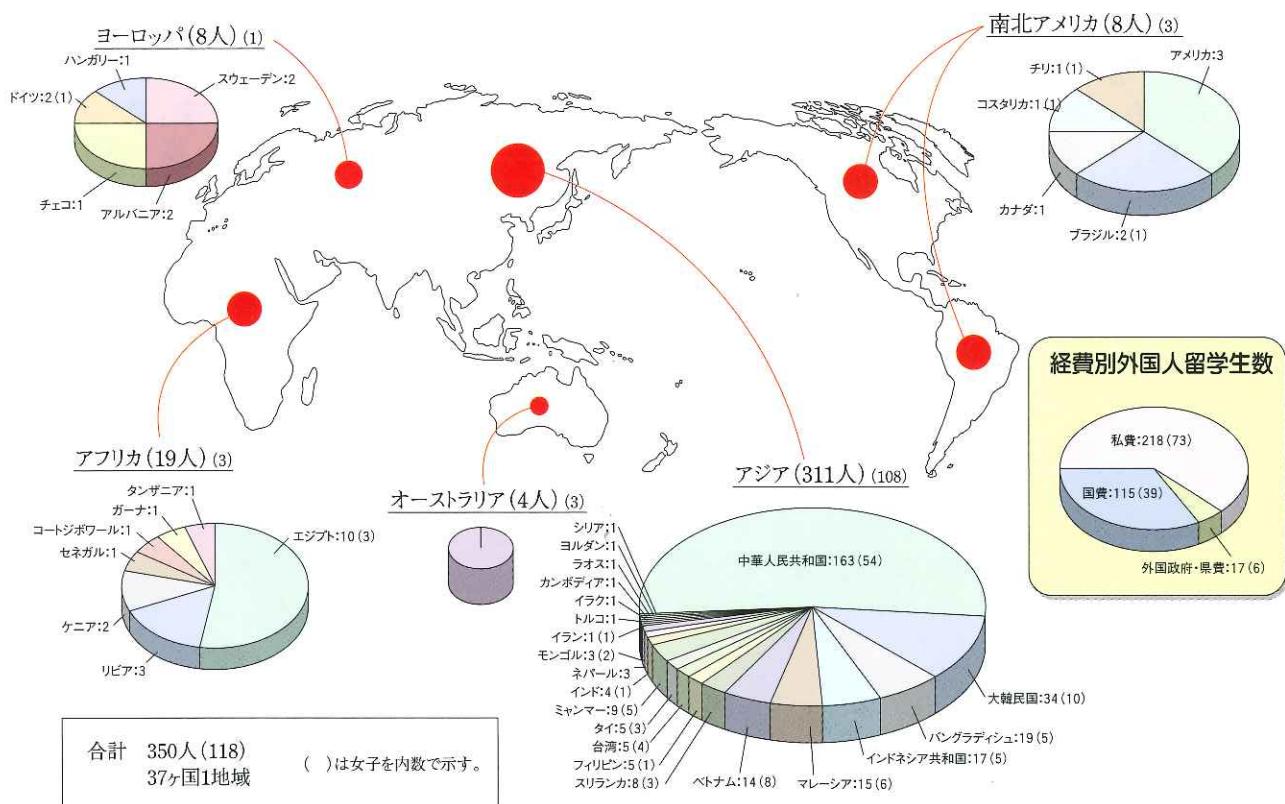
第8 この要項に定めるもののほか、奨学金の支給に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

- 1 この要項は、平成14年10月1日から実施する。
- 2 この要項は、平成15年4月1日以後に留学する者に適用する。

岐阜大学国別外国人留学生数

(2002年12月1日現在)



研究者交流助成事業（大学院学生の海外派遣）

岐阜大学国際交流委員会による学術交流協定大学との研究者交流（派遣・招へい）助成事業について、平成14年度から、大学院学生の派遣も助成の対象となりました。岐阜大学ホームページでもご覧いただけます。

* * * * * 学術交流協定大学との研究者交流（派遣・招へい）助成要項 * * * * *

（趣旨）

第一 この要項は、岐阜大学（以下「本学」という。）と学術交流協定を締結している外国の大学との交流を促進し、教育・研究の向上を図るために、研究者の派遣及び招へいを行う者に対して、交付する助成金について定める。

（対象者）

第二 助成の対象となる者は、本学の専任教官で、学術交流協定大学との教育・研究活動について次の各号に掲げる具体的な計画のあるものとする。

- 一 講義
- 二 講演
- 三 共同研究等

2 前項に規定するもののほか、本学の大学院学生で、学術交流協定大学で行う共同研究等のため、派遣されるものも、助成の対象とする。

（派遣・招へい人員）

第三 派遣・招へい人員は、各年若干人とする。

（派遣・招へい経費）

第四 助成金は、本学国際交流促進のための奨学寄附金の一部を充て、旅費及び滞在費を支給する。この場合、航空運賃は最下級運賃とし、旅費及び滞在費の支給額に限度を設けることがある。

（申請手続き）

第五 助成金の交付を申請しようとする者は、次の各号に掲げる申請書等を毎年指定された期日までに国際交流委員会委員長（以下「委員長」という。）まで提出するものとする。

- 一 申請書（別紙様式1）
- 二 旅客運賃見積書
- 三 招へい状等

（交付の決定）

第六 委員長は、交付の申請があつたときは、当該申請に係る書類の審査を国際交流委員会に諮り、助成金の交付の諾否を決定し、申請者に交付決定の通知（別紙様式2）をするものとする。

（研究報告）

第七 助成金の交付を受けた者は、派遣・招へいの終了後、速やかにその内容及び成果を記載した研究報告書（別紙様式3）により、委員長に報告しなければならない。

（附則）

この要項は、平成七年三月二十日から実施する。

この要項は、平成九年五月十五日から実施する。

この要項は、平成十四年四月一日から実施する。

国際交流奨学寄附金協力団体等一覧

(平成14年12月現在)

イ ビ デ ン 株 式 会 社	岐 阜 プ ラ ス チ ッ ク 株 式 会 社
医 療 法 人 東 山 会 長 良 川 病 院	ク ロ レ ラ 岐 阜 販 売 株 式 会 社
株 式 会 社 市 川 工 務 店	コ ー テ ッ ク 株 式 会 社
株 式 会 社 工 ヌ テ ッ ク	国 际 ソ ロ プ チ ミ ス ト 岐 阜 金 会 社
株 式 会 社 大 垣 共 立 銀 行	財 团 法 人 井 上 国 际 交 流 基 金 会 社
株 式 会 社 K V K	財 团 法 人 田 口 福 寿 会 社
株 式 会 社 後 藤 孵 卵 場	サ ン メ ッ セ 株 式 会 社
株 式 会 社 ジ ム ブ レ ー ン	昭 和 コ ン ク リ ー ト 工 業 株 式 会 社
株 式 会 社 十 六 銀 行	大 日 コ ン サ ル タ ン ト 株 式 会 社
株 式 会 社 ス ギ ャ マ メ カ レ ト ロ	大 日 本 土 木 株 式 会 社
株 式 会 社 太 阳 建 設 コ ン サ ル タ ン ト ロ	太 平 洋 工 業 株 式 会 社
株 式 会 社 ノ 一 ベ ル 堂	中 部 電 力 株 式 会 社 岐 阜 支 会
株 式 会 社 文 溪 堂	東 海 旅 客 鉄 道 株 式 会 社
河 合 石 灰 工 業 株 式 会 社	日 本 耐 酸 壤 工 業 株 式 会 社
岐 阜 瓦 斯 株 式 会 社	ハ 一 ト ラ ン ス 株 式 会 社
岐 阜 県 信 用 農 業 協 同 組 合 連 合 会	パ イ オ ニ ア 貿 易 株 式 会 社
岐 阜 県 農 業 協 同 組 合 中 央 会	長 谷 虎 紡 織 株 式 会 社
岐 阜 車 体 工 業 株 式 会 社	矢 橋 工 業 株 式 会 社
岐 阜 信 用 金 庫	有 限 会 社 東 海 蜂 蜜 社
岐 阜 精 機 工 業 株 式 会 社	ユ ニ オ ン テ ッ ク 株 式 会 社
岐 阜 乘 合 自 動 車 株 式 会 社	

これまで上記の企業団体から、奨学寄附金のご協力をいただきました。誌上を借りて、厚くお礼申し上げます。

(50音順、敬称略)

◆編集後記

岐阜大学国際交流委員会発行のニュースレター28号をお届けいたします。本誌は岐阜大学ホームページにも公開しております。

本誌発刊間際であったため紙面では詳しく紹介できませんでしたが、平成14年12月にエルフルト大学（ドイツ）と交流協定が結ばれました。また、現在アジアの2大学と協定締結のための話し合いが行われており、さらに、ヨーロッパの大学から協定締結の申し出がなされています。今後益々交流の輪が広がっていくことが期待されます。

岐阜大学では、現在全ての学部に大学院が併設されており、大学院レベルでの留学生が増加しています。また、日本語・日本文化の研修のために岐阜の地を希望する留学生も増加しています。留学生は、交流協定締結大学はもとより、協定を締結していない大学からも多数来ています。彼らが新たな交流の芽となることを希望しています。

はっきりとした目的意識を持った留学生を受け入れるためには、学部や大学院の教育の充実はもとより、幅広い目的を持つ留学生を受け入れることができる岐阜大学の機能の拡充も必要とされ、大学においても改革が進行中です。また、研究者レベルでの諸外国との研究交流等は活発に行われてきましたが、最近積極的に留学を希望する学生も増えています。学生が留学しやすい環境や学生の留学を支援するシステムの充実も我々の目標です。

本誌を通じて岐阜大学における国際交流に対する学内・学外の皆様のご理解が深まり、学生諸君の留学に対する意識が喚起できれば幸いです。本学構成員の国際交流への積極的な参加と、学外の皆様のご支援をお願いいたします。

(武内 康雄)

編集者：国際交流委員会：杉原利治（教育学部）、柳井徳磨（農学部）

留学生交流専門委員会：武内康雄（医学部）、中須賀徳行（留学生センター）

事務局：山本宏（総務課）、黒田広子（総務課）

竹原克郎（留学生課）、三輪良博（留学生課）

総務課国際交流室（Tel: 058-293-2011、Fax: 058-293-3209、

E-mail:kokusais@cc.gifu-u.ac.jp、ホームページ：<http://www.gifu-u.ac.jp/>）